

フォレストニュース

植林が地球を救う

平成28年(2016)3月10日

No. 99

発行 高津啓洋

伊達氏が一時帰国



万人ほどの人が避難している状況とのことで、レダの植樹地も、定期的に、浸水対策の必要性を語っていました。

パラグアイで仕事を手伝っている、ビクトル君は、雨季に伸びる、雑草刈りに多くの時間を割いています。また、新車のトラックは、大活躍で支援者の皆様に感謝していますと、語っ

ていました。

帰国前のレダ報告

帰国に際しての、伊達さんからの報告。

(2016年 2月21日)

レダでの天候は雨天が多く、外での作業が中心の植樹管理には活動しにくい状況でした。

ビクトルは2月17日、ヘルマンは、18日に戻ってゆきました。(アスンシオンに家族がいるため



いました。

第1植樹園にアルガロボの苗木を30本ほど植え、トラクターで刈り取られないように、竹の棒を作って挿して目印としました。ソンプレロ、マンゴーの木の苗木も数本植えました。

第2植樹園は、ビクトルに草刈機で草を刈ってもらいました。川岸の近くには水が入ってきていますので心配です。

第3植樹園は、ビクトルとヘルマンが草刈をしました。

に定期的に戻っています)

第1植樹園及び農園は、帰国に際して整備が必要な個所をポイント的に整備しました。ネット室中の整備をビクトルにやってもらい、訪問者が来ても見学できるように、美しく整備しました。

農園ではきゅうりも多く実がなり食卓に提供されています。オクラの数を減らし、下の生姜が育ちやすくしました。唐辛子の数も減らしました。

最も重要な、育苗所の草刈も行い、大きく育った苗木を第1植樹園に植えました。

様々な効果がある、ニームの葉を取って乾燥し、アスンシオンに送りました。

常時植樹に応えられるように、ニーム、アルガロボのポット苗を作りました。

アセロラの実の収穫を終えて、全面的にアセロラの木の手入れを行

果樹園は、ヘルマンが中心になって草刈をして、刈った草をカピバラとコラルの豚の餌として活用しています。

カピバラは頭が良く、トイレの場所も決められたところでちゃんとします。また、外に出かけても、呼ぶと小屋に戻ってきます。お腹やのどを撫でると、コテント寝てしまいます。

その他、文字の消えかかった植樹のネームプレートの文字の書き直しを古くからの移住者の、大和田法生さんに行ってもらって立てました。

たい肥を作る肥料小屋の整備、遮光ネットの整備と新しくゴーヤの苗を植えたりしました。また、土着菌を作り、古いアフレッチョを使ってボカシ肥料を作ったり、枯れ木を集めて燃やすなど、必要な作業をしました。